

函館おしま病院ホスピス 院内ボランティア「ミント」

「やすらぎの時間」支え10年

終末期医療などに取り組む函館市の場町の函館おしま病院(56床、福徳雅章院長)で、院内ボランティア団体「ミント」の活動が10年を迎えた。病室に花を飾ったり、コーヒーを入れたりして患者の心をなごませている。

(本庄彩芳)

花飾り、お茶入れ…患者とふれあい

10月下旬の昼下がりに、同病院ホスピス病棟1階で、患者に楽しんでもらうためのハロウィーンのカフェイベントが開かれた。仮装する看護師らに交じり、ミントのメンバー6人が患者とふれあっている(藤

田佳久企画部長)と頼りにする。

由美子さん(72)は千代台町Ⅱが入れたコーヒーを味わい、「寝たきりだけど、季節感を感じられて楽しい」とほほ笑んだ。

ハロウィーンイベントを手伝っていた安藤さんは5年前、90歳の母を同病院でみとった際にミントのもてなしを受けた。

同病院は2004年4月にホスピス病棟を開設。ミントは05年6月、同病院のボランティア養成講座を受講した1期生で組織された。名称は「かがえのない時間」という花言葉を持つミントにあやかった。

現在、50〜70代の23人が登録し、週1回、月1回のペースで病院を訪れる。患者にお茶を入れた

り、絵手紙や縫い物の作り、

ミントの問い合わせは同病院 ☎01388・562308へ。



患者に笑顔で接するミントのメンバー